

(答弁書第百十九号) 昭和二十二年十一月二十五日配付

内閣参甲第一三四号

昭和二十二年十一月二十一日

内閣総理大臣 片山 哲

参議院議長 松平恒雄殿

参議院議員小川友三君提出保健所費用支出等に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

參議院議員小川友三君提出保健所費用支出等に関する質問に対する答弁書

一、保健所が理想通り運営されない一つの原因が國庫の支出が少い点にあることは全く同感である。

これは從來衛生行政特に保健所費の如く健康を積極的に向上するに必要な経費の支出は可なり困難であつた事情によるものであるが、今後は文化國家建設の上からいつても、かような経費が相当重要であると考えられるので本年度追加予算には從來の倍額程度を支出するように國會に所要予算を提出中である。なお今後この予算の増額には努力する心算である。現在保健所は医師一、二二一名、保健婦三、二

一五名の定員であるが六月現在の医師及び保健婦の就職数は医師八八二名、保健婦二、五一九名である。

二、直轄薬学専門学校の戦災は二校で昭和二十一、二十二兩年度においてそれぞれ公共事業として建物復旧工事を実施中である。なお昭和二十三年度においても残り工事につき予算要求中である。(別表一對

照のこと)

私立薬学専門学校の戦災は七校であるがうち帝國女子医学、薬学、理学専門学校、東京女子薬学専門

学校及び昭和女子薬学専門学校に対しては私立振興協議会の議を経て昭和二十一、二十二兩年度において低利長期償還の政府貸付金を貸付し建物復旧を助策している。爾余の四校は被害比較的軽微のため私立振興協議会の議において貸付の対象とならなかつたものである。なお昭和二十三年度分としても相当予算を要求中である。(別表二対照のこと)

別表一

新 營 工 事 (含移築)

学校名	罹災 坪数	復旧計画		昭和二十三年 度完成 見込坪数	昭和二十二年 度完成 見込坪数	寄附工 事坪数	差引 坪数	昭和二十三年 度要求額		備 考		
		建物 名称	坪数					坪数	坪数		単價	金額
富山薬専	三〇一八	教室 其他	一、三〇四	—	一四一	—	一、一六三	三八〇	三、〇四〇,〇〇〇	円		
		実験室	四〇七	—	—	—	四〇七	七五	一〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇,〇〇〇	補修 工事なし
		寄宿舎	九五〇	—	—	—	九五〇	二五〇	九、〇〇〇	二、二五〇,〇〇〇		
		計	三、一六一	—	一四一	—	二、三七八	七三〇	—	六、一九〇,〇〇〇		
熊本薬専	九六三	実験室	九六三	—	八〇	—	八八三	三〇〇	九、〇〇〇	二、九〇〇,〇〇〇	同右	

別表二

学 校 名	罹災前総 坪数	罹災坪数	罹災率 %	貸 付 金 額		備 考
				昭和二十一 年度	昭和二十二 年度(予定)	
帝國女子医学、薬 学、理学専門学校	九、八七〇 <sup>坪</sup>	八、三三四 <sup>坪</sup>	八二	四六八、〇〇〇 <sup>円</sup>	一、六六〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	医、理科総てを含む
東京女子薬専	一、九七三	一、七五〇	八七	九七、〇〇〇	三四五、〇〇〇	
昭和女子薬専	一、四二一	一、二九七	九〇	七三、〇〇〇	二五八、〇〇〇	
東 京 薬 専	一、五二六	一、零九	一一	〇	〇	
星 薬 一 専	三、四一四	一、〇一八	三〇	〇	〇	
静岡女子薬専	三、七七	三、七	一〇	〇	〇	
大、阪 薬 専	二、〇四三	〇	〇	〇	〇	大破以上の罹災なし
計	二〇、六一四 <sup>坪</sup>	一三、五八五 <sup>坪</sup>		六三八、〇〇〇 <sup>円</sup>	二、二六三、〇〇〇 <sup>円</sup>	

三、鍼灸按摩柔道整復等の取扱に關しては人体の健康に密接な關聯があるので慎重に考究いたしました結果一應成案を得ましたので關係方面の諒解を得た上法律案として今國會に提出する予定でありまして、盲者についても制度上の區別を設けず能力ある者については將來も鍼灸術をなさしめる考であります。